

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年
1月17日
第144号



タラノキ (ウコギ科)

講義棟との通路を挟んだ園内のフェンス沿いに、タラノキが数本並んでいます。この木の冬芽は葉痕が目立ちます。春の新芽は、山菜で名の知れた「タラの芽」です。木の頭から出た冬芽が新芽になるわけですが、まだ芽が小さくよく分かりませんが、しかしその下にある葉痕は維管束がシンジュの首飾りのように綺麗に並んでいますよ。

タラノキの根の皮が、日本薬局方外生薬規格に記載されている生薬のタラコンピ（タラ根皮）となり、日本の民間薬として使用され、第三類医薬品として「血糖降下」の効能が承認されています。タラノキの樹皮または根皮は、刺老鴉cilăoyāという名の生薬となり、補気安神、強精滋腎、祛風活血を目的に、関節痛、糖尿病、肝炎、便秘などに使用するそうです。なお、タラノキのことを「椴木」と書くことがありますが、中国語の「椴木」は、同属ですが別の種になります。

バラ (バラ科)

園内、温室の南側に、一輪だけ咲いています。バラの花期は、通常は春から秋ですが、冬に咲く園芸種もあり、たまたまそういう種だったのですね。「バラ」は植物の属名で、その下分類にはさまざまな種が知られていて、この写真のバラがどの種かはちょっと不明です。バラ科植物を基原とする生薬は多々ありますが、日本でバラそのものを基原とするのはローズ油で、薬局方には記載されていませんが、「新鮮なバラの花を水蒸気蒸留して得た精油」を基原とする医療用医薬品「その他の矯味、矯臭、着色剤」として、承認、市販されています。

日本での野生のバラの代表種はノイバラで、こちらは果実がエイジツ（営実）という、日本薬局方にも記載されている生薬となり、漢方製剤には配合されませんが、民間薬として瀉下、利尿を目的に使用されます。